

試験  
検査

三

0234

送

次長

供覧

主

無業部

第四部長  
第三部長

五號二

明治四十年一月十日

軍大員

軍艦三隻修理(公試)運轉成績表一通

右進達

別紙(彙添)

田

田

田

田

田

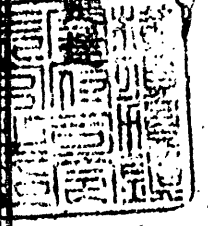
田

田

田

0235

二月七日



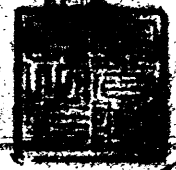
參謀長  
機關長  
工廠長



二月四日

明治四十一年二月二日在清水

公試運轉先任委員財政部



横須賀鎮守府司令長官月壽上村彦之丞殿

機務部

會計課  
試運轉成績表五示壓圖一件

第四部

第三部

試運轉成績表五示壓圖 一部

軍務局長

局員



海軍省

第一班



海軍省  
機務部

40



0236

2-17

白

供覽

鎮守府  
二

村松 進 幸 吉

一 驅逐艦白妙旋回力公試成績表 壹通 今并  
右 進 幸 候也

明治四十年二月五日

佐保鎮守府司令官八条嘉房司令

會計課長 吉澤

第三部長 津大森清林

第四部長

軍務局

局員

海軍

0237

六五

供覽

艦隊部

第四部長  
第三部長

軍務局長

35 軍務局長

興鎮第二九四三九一九

以收軍令下旨

各該部及之各員速為山内前所

西平右官軍部高者實收

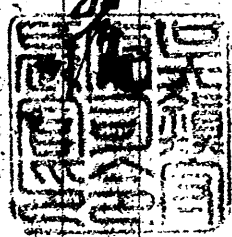
會言訓集

之平清生於此... 或表過者

左生... 製塔出也

福田

局員



第二班  
第三班

海軍

成續表... 七...

0238

2-135

2-135

二月廿五日

供覽

宗谷第一二三號

明治四十一年二月十八日於精須賀港

宗谷旋回力試驗先任委員 財部 啟

特許 守府司令長官里爵上村彦之丞 殿

一、軍艦宗谷旋回力試驗成績表 送通  
右進達不

艦本部

第三部長  
第四部長

軍務局長

會計課長

參謀長  
機關長

副官  
機關官

檢査官  
操機部長

乘部二務主任

0239

2.23

馬場

早二日

海軍艦政本部

會計課長

大阪鐵工



艦政本部長

第三部長

第四部長

Handwritten cursive text (kuzushiji) covering the main body of the document, likely a report or correspondence.

艦本第八八八號

Vertical text on the left margin, possibly a date or reference number.

大阪鐵工所 通川北丁一番一號 電話二二二六

0240

大阪鐵工所用紙

◎此紙重八凡才大區備立特出二御差出可認下候

右通為夫書意公以野  
中野書意公以野  
中野書意公以野

【第九十二番】 諸君謹啓 氣屋番一目丁四北通川治安區西市法大

0241





有夢之疾九訂後本年二月二十五日  
 之院定方有之方也者常務者  
 之也之也也後且也之夕一先  
 常以形身以郵書上申以生  
 也也

三月廿五日  
 可也印考

福田子之助殿

0242

Table with multiple columns and rows, containing faint text and numbers. The content is mostly illegible due to low contrast and scan quality.

5450

0243

監  
初  
...

艦政本部

第三部

軍務局

軍令部

第三四六...

會計課長

進達

艦政本部  
初春旋回  
試驗成績表

右別紙  
調製提出候  
付進達候也

第四部  
明海  
四月  
三月十六日

馬員  
兵鎮守府  
司令長官  
山内萬壽

海軍大臣  
藤實殿



海軍大臣

...

...

...

海軍

軍

0244

艦政本部

第三部長

第四部長

軍務局

軍令部



會計課長

海軍大臣

海軍少将

七

右 逐艦松風 遠達 候也 面力公試成績表一通

局員

明治四十年三月二十日

海軍大臣齋藤實改

次長

第 班

海軍大臣齋藤實改

海

0245

大臣電

次官報

軍務局

艦政本部

軍令部

次長

第一部長  
第三部長  
第四部長

達送

手紙

受信人住所氏名

無

發

第...局  
月...日  
報局號日

取扱者

一班

指 定

特格

注 意

受信人住所氏名

他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符  
號シ直々ニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ  
決シテ取扱取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ

事 記

石見 長  
軍物 運轉 良好 ナリ  
機 械 試  
電 動 機 試  
ト  
カ  
マ  
コ  
ヒ  
テ

0246

3-287

3-287

55

海軍  
経  
試  
統

共  
統  
濟

艦政本部長

第四部長

第三部長

供  
覚

軍務局

會計課長

本部  
正  
副  
長

避  
令  
試  
軍  
轉  
本  
名  
耗  
以  
環  
集  
良  
好

佐  
長  
保  
之  
長

山  
局  
員  
調  
査

村  
務

海  
軍  
三  
三  
十

0247

7-277

# 電 報 送 達 紙

局	着	局	發	名氏所居人信受		
取扱者 受信	受信 午後 時分	付 午後 時分	第 一 號 局	月 日	報	<div style="font-size: 2em; font-family: cursive;">カ タ テ</div>
	字	分				
定 指				名氏所居人信受		
事 記				注 意		
<div style="font-size: 2em; font-family: cursive;">カ タ テ</div>				<div style="font-size: 2em; font-family: cursive;">カ タ テ</div>		

0248

海軍  
供

艦政本部

第三  
第四

軍務

佐鎮幕僚 明治四十年三月二十八日

本報告は本月二十日、講談社筆記代用トヒテ配付スルモノナリ

司令

軍務

小

大

本報一  
松橋成慶  
待流成金  
小柳三枝  
大谷春吉  
其書實  
レテ最ニ  
ハスル也  
物筆之傳

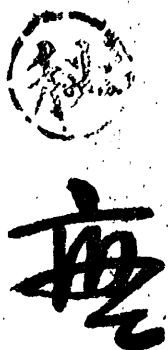
41.



0250

0249





天洋丸公試運転見導報告

海軍機関本府の本報一  
海軍機関中長吉松橋成慶

海軍省  
供覧

明治四十二年二月十日  
長崎三菱造船所建造ニ於テ東洋汽船會社

後天洋丸公試運転ヲ見導スルノ旨本汽船公試運転本部ニ於テ

後天洋丸公試運転ヲ見導スル旨本汽船公試運転本部ニ於テ

見導者賜テ見導シテ後機室内ニ於テ充満セルヲ見受ケタリ

三菱造船所ハ取次ヲ嚴守スル誓約ヲ以テ「パーソン」本社ヨリ其事實

購入シタリテ一切見導者ノ記録ヲ謝絶ニ特種ノ装置ニ付テテ嚴シク

ヲ施シ其ノ部分ヲ見導シテ謝絶セシム見受ケタリ故テ以テ欲スル処

ナル觀察ヲ爲スルハ尤モ貴格トスル所ナリ又記録等モ其時々執筆

シテ以テ四里大略ノ報告ヲ爲スニ止ル所ナリトス

艦政本部

第四部長  
第三部長

先十本船  
目  
左ノ如シ



Sealight over all

575-11

4.1



0250

0249

" between perpendiculars	550 ft
Moulded breadth	630 ft
" depth to upper deck	38 ft 6 ins
" " " shelter deck	46 ft 6 ins
Gross tonnage	14,000 tons
Displacement	21,000 tons
First class passenger	275
Intermediate "	54
Stowage	800
Type of Engine	Parson's Turbine
Boilers	18 Cylindrical
Working pressure	180 lbs
No. of shaft	3

0251

Pitch of propeller 80t 9<sup>m</sup>  
 Revolution per minutes 270  
 Indicated H.P. 17,000  
 Designed speed 20 Knots  
 Cargo Capacity 8,000 tons.

0252

本船主前不時身長船、浦、板、鐵、木、等、計、十、餘、日、兼、船、  
 上、船、中、三、種、等、標、特、同、於、本、船、船、中、省、山、日、  
 及、其、其、續、大、船、在、如、

	後 廢 計 (噸)						真 空 計 回 轉 數					速 力
	汽 缸 室	主 機 室	汽 缸 室	汽 缸 室	汽 缸 室	汽 缸 室	左 機	右 機	左 機	右 機	中 機	
第一回	180	160	140	24	28	3	25.5	27	271	278	260	19.039
第二回	蒸氣壓力漸次下降汽機、回轉數他、時七一、定、セ、ズ											17.510

第1回	180	170	185	19	24	8	28.	20.	254	245	242	79,421
第2回	189	172	140	28	26	8	26.5	24	281	299	221	18,238

右表ニ示ス如ク第一回ノ可ヤリ好成績ヲ以テ終ルニ續クテ第二回ノ航走ヲ始  
ムルヤ浪懸ク漸次下降ニ回復スルノ模様ナリ極イロテ運航ヲ繼續ニタリシモ  
成績思ハシカラズ概シテ七節キ一連カラ得タリシニ過ギヤリシヲ以テト先リ休憩  
ニ更ニ第三回ヲ繰カノストニ午午三時ヨリ第三回ノ航走ヲ試シタリシカ航  
走ノ向ハ必シク安全ノ象ヲ損シ漏洩甚カシク又給水喝嵩ノ工合良好ナラ  
ザル為メ給水不足ヲ生スルニ至リシヨリ以テ第四回ノ航走ハ公試ヲ中止ニ  
更ニ他日ヲ期シテ試航スルニ決セリ午午四時キ航走投錨ス  
運航中禁火ノ状況ヲ觀察スルニ火火ノ熱トモ島合ノ象ニシテ(簡ク火ニ依レバ  
海員救済會其他ノ臨時備入レト云フ)午前ヨリ引續キタル航走ニ疲勞  
シク作ルニ續キテ禁火ノ象ノ氣ヲ感シタリ我海軍ノ兵員ヲ使  
用シタル所ヨリ一見天地ノ相異アリシヲ認メタリ冒險ノ如ク起律アル禁火ヲ

爲に能ハルリ不得止モノナリ上座モ今少シク孰練ナル禁火ナリ櫻是スルヲ要スルナラン

当公試ニ先ク去ル十日第一回準備運轉トシ出港ニ引継キ十三日ニ六回操柱間航行ヲ行ヒ平均速カニ〇ノ〇ノ六ノ〇〇〇ニ得タルニ造船所長、

廣語ナリニ

天球形主振機ハコリンズニ聯成ニ置キ其ノ成リ直徑七十六吋ノロータリーヲ有スル高壓旋回機ハ機軸室ノ中心ニ据付ケラ直徑百六吋ノロータリーヲ有スルニ基テ低壓旋回機ハ高壓ヲ採テ其内側ニ据付ケアリ孰レモ全ク十二分ノ一ナル車軸ヲ回轉ス  
後進用旋回機ハ低壓旋回機ノ後部ニテ同軸上同クコリンズ内ニ據付ケラレ後進旋回機若クハ前進旋回機使用スル孰レカ他ノハコリンズ内ニテ空轉ス又排液ノ共同ニテ前者同ク低壓ト稱スベキモノナリト雖モ直機復テ同ク連続スルヲ以テ使用スルル機軸ニ基テ逆流スルナリ

0254

既ノ屬ハ機械室ニ於テ各汽管ト巡回機ノ連絡ヲ示シ略圖ニシテ各機ノ位置ハ巡回機ノ後管ヨリニギヤローキングバルブ(一)ヲ至テ直接相通シ低壓前進巡回機ノ後管ヨリニギヤローキングバルブ(二)ヲ至テ直接低壓前進若クハ后退巡回機ニ送流シ得ル様ニ装置ナセリ

今ニ四機ノトニテ運転中急ニ後進ノ命ニ接スル時ハ高壓ニ至ルレギヤローキング(一)ノ閉塞スルト共ニ(二)ノバルブヲ閉シテ後進巡回機ニ噴流セムモノナリ出入決ノ如キ發停頻繁ナル場合ハ高壓巡回機ノ使用セズ乃チ(一)ノ命ハ全ク閉塞シ(二)ノ命ヲ閉シテ低壓前進若クハ后退巡回機ノ使用スル此ノ場合ニ於テ低壓ハ高壓巡回機内ニ流壓ノ送流ヲ防止スル為ニ低壓巡回機ニ各々一付ノ自働バルブヲ準備シアリテ若シ低壓巡回機内ノ流壓ハ高壓巡回機内ノ流壓ニ超過スルヤハ自働的ニ之ヲ閉塞スルモノトス

出港ニ際シ其操縦ノ様様ヲ見セシニ艀橋ヨリ命令機ニ至ル命令ハ艀  
低壓ノ前進若クハ后退ノコト僅中ニ艀機全速トナリルヤ如クノ中央命  
令機ニ依リ中央旋回機ヲ使用セシム

又入港ニ際シニ艀機ヲ半速ニ為シタルト共ニ中央旋回機ヲ停止シ命  
ヲ下セリ隨テ後機室ニ於テ同時ニ艀機ヲ止メ艀機ノコト速減シ  
リ又出入港ニ際シ前進若クハ后退若クハ前進ヲ停止シ或ハ停  
止ニ際シテ瞬時汽壓ヲ逆送シ惰力ニ依リ艀機ヲ止ル様操縦セリ  
出入港ニ於テ艀機ノ回転數ハ最微速ニシテ、微速一四〇、半速一六〇、全速二〇〇  
トナシアリシモ機ハラウハ之ニ對スル速カラ知悉スルヲ得ヤリシ

艀機ノ回転數ハ普通ノ回転計ヲ使用セルモ只ニ艀機ノ一回轉ヲ  
指示セリ又艀橋ニ於テ艀機ノ連系セル電氣回転計ニ依リ艀取室ニ  
頭ハル様装置セリ

又汽壓ノ過昇ヲ防止スル為ニ各旋回機ノ上面ニ伯死ノ逃氣弁ヲ  
ナ

リ尚ホ後機ヲ殺働スル際ニ初期ノ振動ヲ減少スル目的ヲ以テ後機  
上ノバイパスノ弁ヲ設ケ第一ノ膨脹ヨリ直接ニ膨脹部ニ送流スル  
得セシム

第三番ノ各壓力計其他計器ノ配列位置ヲ示スモノニテ第三番ノ機  
械室ニ於ケル主機械及諸補助機械ノ概要ヲ示スモノナリ

ポンプノ旋回機ニ於テハ普通ノ抽気筒ヨリ乾氣油乾氣抽気唧  
筒ヲ備フルヲ常トス之レ高度ノ真空ヲ得ルヲ爲メテ普通ノ抽気唧  
筒ニテ抽出セラルル残余ノ空氣及蒸氣ヲ抽出スルニ供ヘル又其ノ  
熱セラルヲ防ケ爲メ筒ノ外側ニ海水ヲ循環セラルレヲ冷却スル  
キハ約セ九寸ノ真空ヲ得ルヲ爲メテ天球也ニ狀ノ設備ナレトモ真空ヲ  
増大スル目的ヲ以テハキヤムノ第一ノグレンタート称スル小形復水器ヲ主  
復水器ノ下部ニ備フ第四番ノ其構造ノ大略ヲ示スモノニテ其構造  
ノ一般ニシテ蒸氣注射器ニ依リ主復水器内ニ残存スル蒸氣及蒸氣



殺氣ヲ誘出シテバセル復水器ニ送リ、<sup>1</sup>ニ抽気吸筒ヲ抽出セシメ、  
置ナリ又主復水器ヨリ抽気吸筒ニ至ル管ヲ曲屈シテ常ニ其部ニ水ヲ  
充満セシメテ空ノ気及蒸發ノ氣ニ再ニ主復水器ニ送還スルヲ防止  
スルモノトス

主軸兼ニ各機ニ付カ有シタル普通後機ニ能クモト同一ニシテ、  
以テホワイト、ソルト、ヨリ成リ、<sup>2</sup>乃至ヤクノ壓力カ有スル壓縮油ニ  
ヨリ潤滑セラル、装置ナリ、<sup>3</sup>片々油槽ニ充テ、抽出セラル、<sup>4</sup>油ノ注油  
筒ニテ軸兼ニ送ラレ潤滑セラル、<sup>5</sup>右各機ニ入りテ冷却セラレ、<sup>6</sup>潤滑  
ヲ通過シテ、<sup>7</sup>各軸兼ニ供給セラル、<sup>8</sup>各軸兼ニ其摩擦ヲ防止スルニ為  
メ、<sup>9</sup>内各部ニ生ズル熱ヲ散リ、<sup>10</sup>流通セシメ、<sup>11</sup>又其ノ方面ニ潤滑油ノ温度  
ヲ計測スル物ヲ、<sup>12</sup>寒暖計ヲ挿入スル、<sup>13</sup>併セテ、<sup>14</sup>通常運轉時、<sup>15</sup>凡十九度乃至百  
四十五度ニ保持セラル、<sup>16</sup>ノ見度イタリ

各用機部ニ付、<sup>17</sup>部介ニ於テモ相平均セラル、<sup>18</sup>以テ、<sup>19</sup>ローターニ殆ク不<sup>20</sup>同ニ、<sup>21</sup>旋

たててあり殊に前述ノ如キ装置ヲ施シテ以テ軸系ノ「ブラス」及び「自  
也」合金ノ摩耗ニ強ニ抵抗セリトス

旋回機ノ内部検査ノ為ニ上ギ部ノ「ケーシング」を取外シ及取付ニ際シ「ロー  
」毀損スル恐レアルヲ以テ下部「ケーシング」ノ四隅ニ固定ニシテ自盛ヨ有ル四  
角ノ「ガイド」スタッドアリテ機身上階下ヲシテ「高」ナラシム

受推台ニ普通ノ突頭式ノ「モート」同シク上下ギヲ以テモ下ギ部ニ專ラ前進  
用上ギ部ニ後進用ニ專用セラル元來旋回機ニ於テ「推」進「退」進「退」進「退」進  
「ローター」推カト「引」込ト相等シク其方向相反スルヲ以テ車切ニ受推台ハ  
單ニ後機ノ系傳ニ際シ突出トシテ推カニ備フルニ過ギズ而シテ上ギ  
部ニ調整螺ニ依テ前後ノ方向ニ移動ニ得ルヲ以テ「ローター」正確ナ  
ル位置ニ保持セシム

旋回機取扱者トシテ注意ヲ要スルべき事項ハ夥多アリ此處モ次ノ二項ハ  
尤モ重要ナルモノト信ス

(第一)前記進機由機若シカシクリヤーランスレハ其五番ニ示スガ如キ  
 フビンガー、プレート、ゲージニ依リテ屢々之レヲ測定スルヲ要ス乃ハ(イ)ハ  
 フビンガー、プレートニテ受推台ノ下平部ノ結構ノ一部ニ取付ケラレタ  
 平鉄ヲ成リ其尖端ニ車軸ノ「カラー」ノ側方ニ沿ッテ突入セシムガ故ニ「  
 」キヤレヲ挿入シテ其間隙ニ依リ「カビ」リングレノ磨耗ノ程度ヲ知得  
 ス「キモ」トスル由隙「カビ」リングレノ調整ノ際隙ノ精測シ置キ後  
 機ノ使用久シキニ亙リ「カビ」リングレノ磨耗ヲ生シタ時ニ受推器ノ下  
 平部ニ取付ケアル調整用「リング」ニテ之レヲ加減ス「キモ」トス  
 (第二)各「ケーシング」ノ両側端シ「ブリッヂ」ゲイジ「ヲ」設ケ軸兼裏金ノ磨  
 耗ヲ生ズル「ドラム」スピンドルノ位置ノ下降ヲ驗ス第ニ番ニ其概要ヲ  
 示ス乃ハ(イ)「ハ」「ブリッヂ」ゲイジ「ニ」テ「ホ」「ドラム」スピンドル「ナリ」  
 (ロ)「ハ」  
 (ニ)「ホ」ナル「スピンドル」ノ頂部ト「ハ」同ニ屢々「ガ」キヤレヲ挿入シテ其間隙ノ  
 程度ヲ測定シテ不時ノ出来事ニ備フルモ「ト」スル論其ノ間隙ノ設計

当事ニ計測ミタルモノニ比較シテ其摩擦耗量ヲ知得スルキモノナリ  
又喫力カ普通ノ汽機ノ如ク測定セ得ヤリシ以テ車軸ノイートレシヨンプ  
カニ依リ測定セシ物ノイートレシヨンプ、エンド、ギヤシヨンプ、パテントトローシヨンプ  
タレシ右軸ニ何枚取付テアリシモ其測定儀ノ全部ハ嚴密ナル秘儀  
ヲ保ヤノ部分スラ觀望セ得ヤリシトモ遺憾トスル処ナリト云モ尙クカ  
如クバノソガーン氏著「ディーゼン」書中ニアルモト同ノナリト云フ  
又本船ノ後室ニ直径十五呎九寸長サ十呎六寸ノ單面缶ニシテ總計十五臺  
ヲ裝備ス「モリソン」式「ガスパンシヨンプ」フアース「フ」各室四角形ヲ有ス且ツ  
「ボイデン」式磁壓通気シヨンプ重油燃料ヲ使用スルノ設計ナルモ今圖ハ故  
運輸ニ以テ裝置ヲ使用セズ全ク石炭燃料ヲ使用セリ  
後室室ノ電氣的自働防水ニ依リ何區劃サレ前室室ニ六室後室室  
ニ七室ヲ備ヘ後室室ニ一室專ラ補助機械用ニ使用スルノ石炭ヤリト云フ  
總火床面積「九」五平方呎ニテ總受熱面積「三」七六六平方呎ナリ

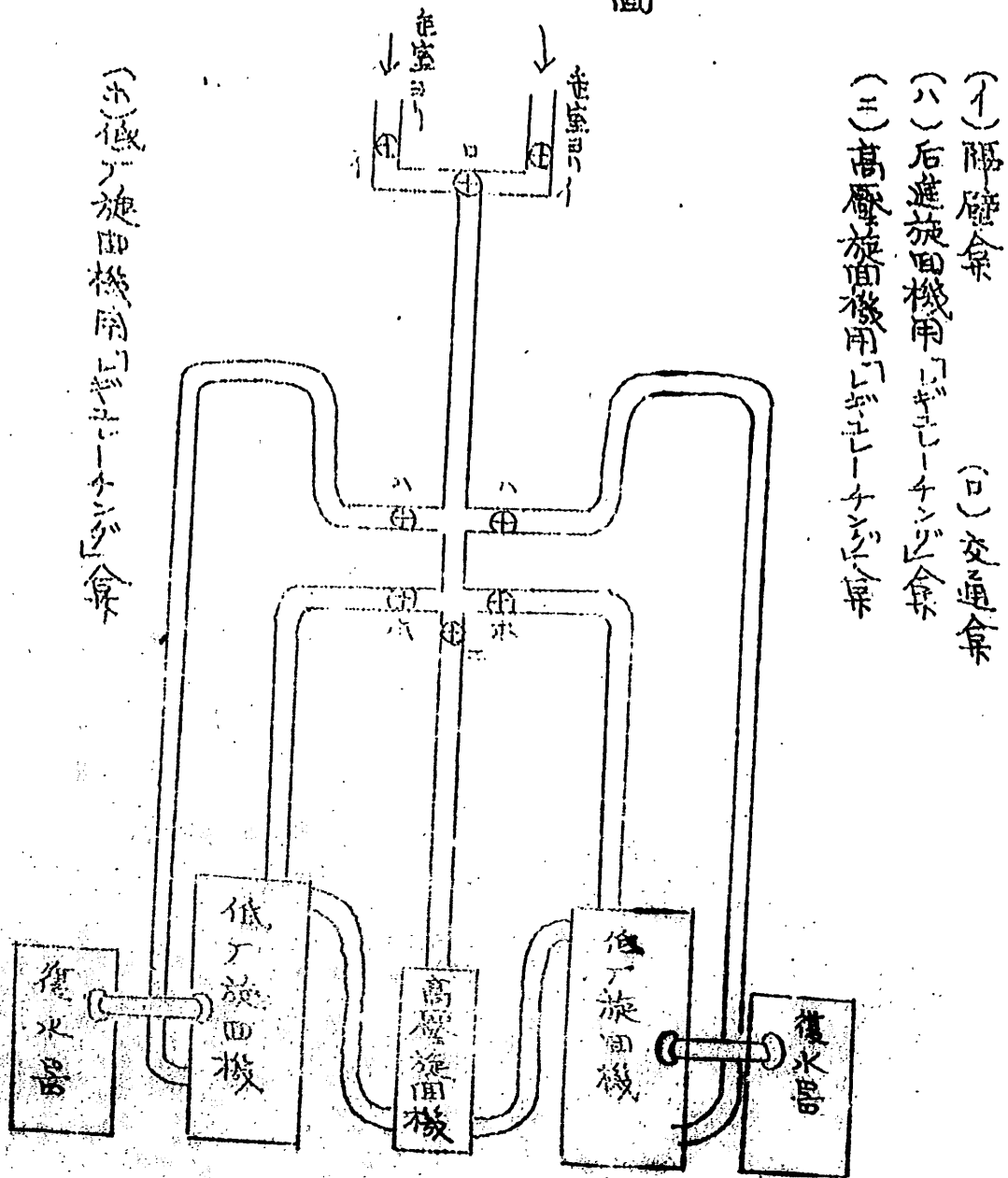
本

石炭、油、黄銅、油、黄銅、其他、速カト、田、新、南、係、就、全、然、也、  
ニ、由、テ、カ、リ、シ、テ、大、ニ、速、域、ト、ス、ル、也、ナリ

(終)

0262

第一圖

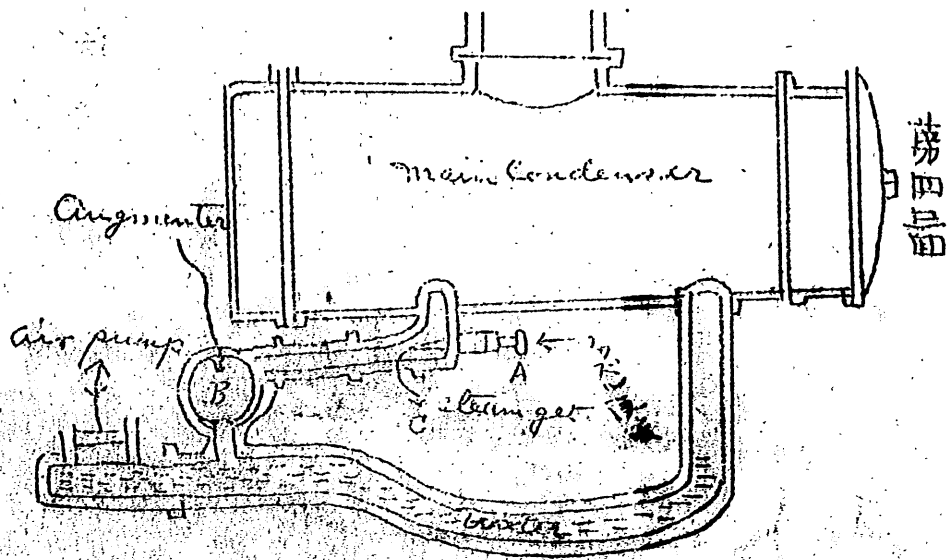
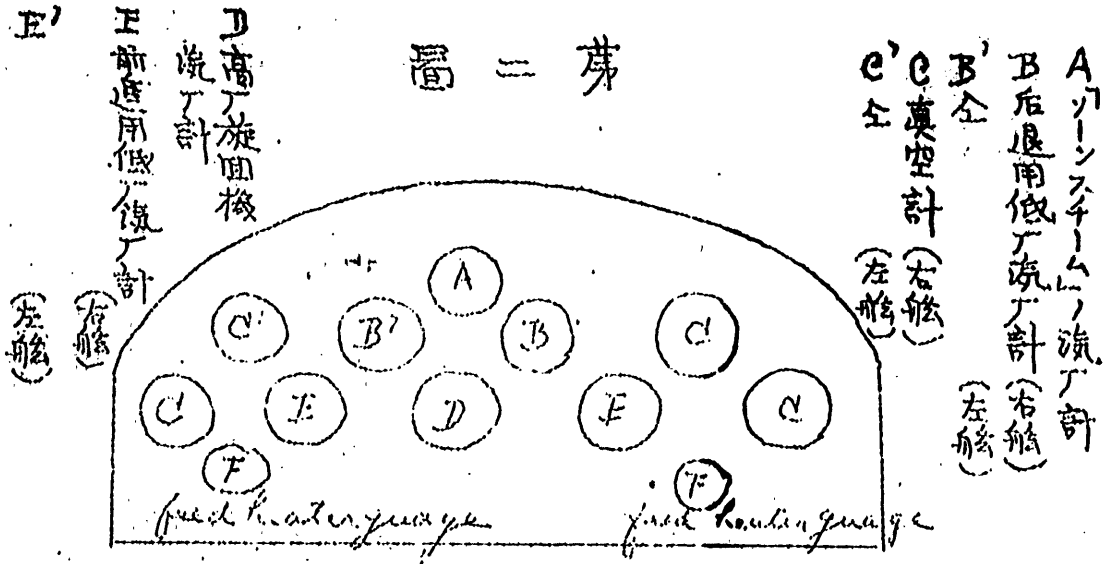


(ホ) 低圧旋回機用リキタータンク

- (イ) 隔壁倉
- (ハ) 后進旋回機用リキタータンク
- (ニ) 高圧旋回機用リキタータンク
- (ロ) 交通倉

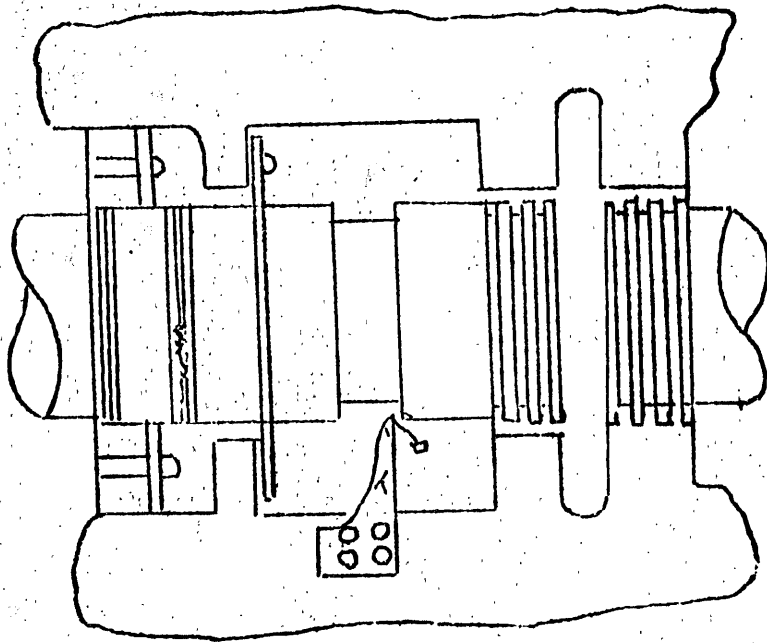
0263

圖二第

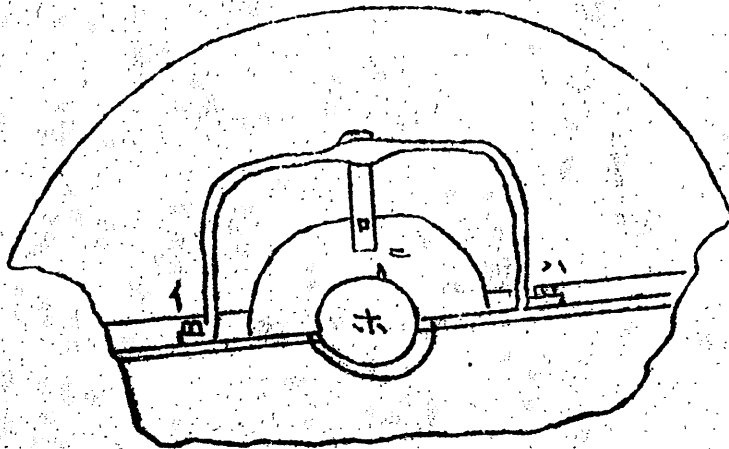


0264

第五圖



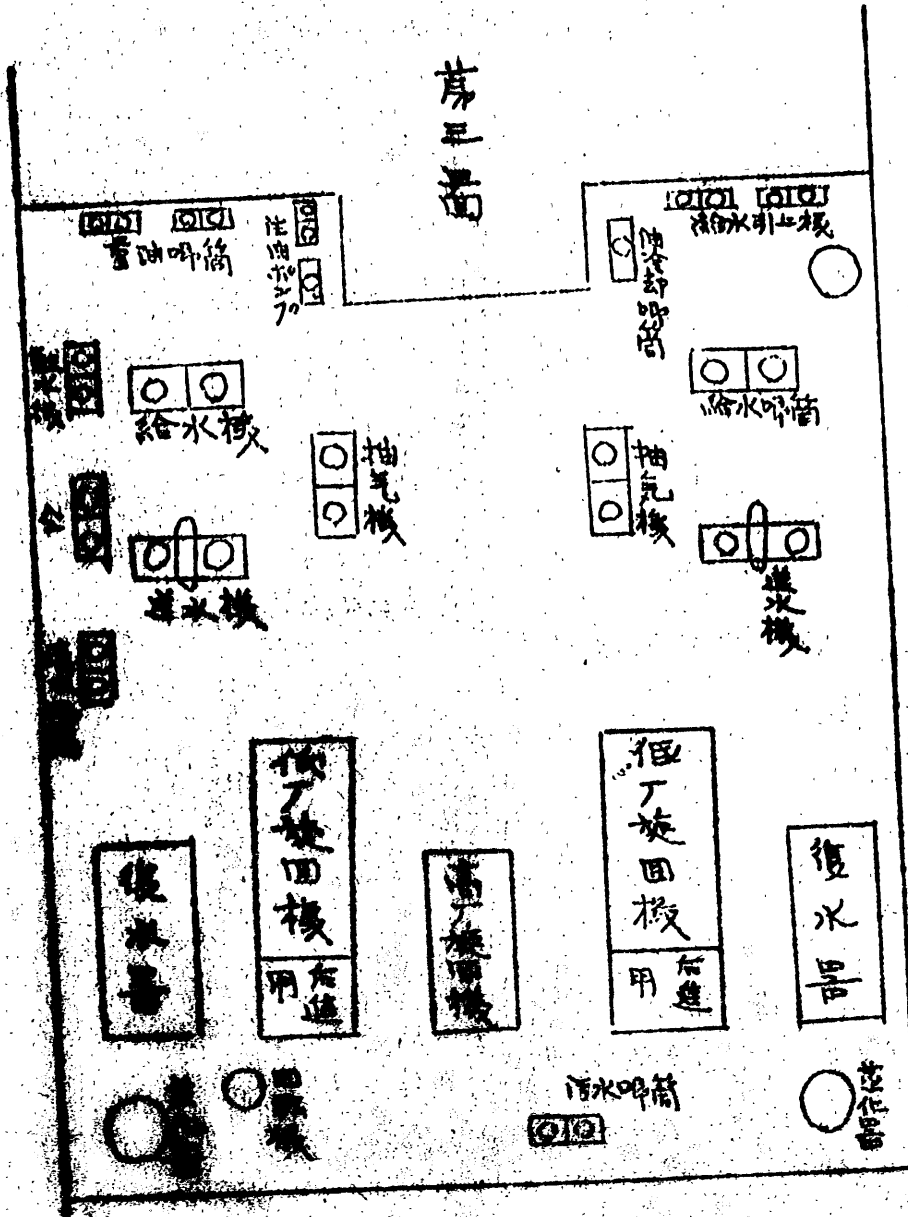
第六圖



0265



第三圖



0266

行政手帳

總務部長



第四部長



第三部長



會計課長



副官

柳登

山梨 參事官

三井 發

大臣 齋

日十一月二十三日

次官

單務局長



局



令

日十一月二十三日

大臣

官房第一三五號

海

3:30 AM. 11.23

0267 J-31

日通洋行通凡識類所止ノ件  
認  
証  
三

(巻)

三  
宣

0268

艦政本部

第四

軍務局

司令部

官房第一三五八號

三六八 電報

大員宛

森岡 幸次

日進 公使 近衛 白根 通海

少佐 中島 功 九条 百助 力 十七、三、三、上

三浦 重光 畑 留 彦 形 北、リ

張 慶 通 日 初 陸、可 止、度

河 洋、乞、リ

海

三三三三



3-30

0269

電 報 送 達 紙

局 着		局 發			名氏所居人信受	
取扱者	受信	付午後	受午前	第三	局	報
ニ	午後 時 分	の 時 分	〇 時 分	七 日	〇 號	友 報
<p>ヨ コ ト カ メ タ シ コ シ キ</p> <p>カ カ カ コ コ コ コ コ</p> <p>ト エ タ リ セ マ モ ク ク</p> <p>バ リ キ 一 セ 三 ノ ク</p> <p>ン リ ク ク ク ク ク ク</p> <p>シ ゼ ク ク ク ク ク ク</p> <p>ニ ハ ク ク ク ク ク ク</p>						定 指
<p>注 意</p> <p>他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符                  號シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ                  決テ其ノ本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ</p>						名氏所居人信發
<p>マ ハ</p>						事 記

0270

海軍大臣

如右様、再回了文

海

二潛機密第三三號ノ二

四月九日進達

明治三十四年四月七日

第二潛水機密本部

付格



供覧

海軍大臣 周壽 齋藤 實殿

第六潜水艇速力試験報告

艦政本部

第四部

第三部

軍務局

軍令部

宣統二年四月三十日... 十一月廿五日二潜機密第五十一號ヲ以テ報告セル...

速力試験... 初期、於テ九月二十七日二次電池... 第三回目ノ推進器ノ取付ヲ了シ第一次...

速力試験... 諸工事...

速力試験... 諸工事...

速力試験... 諸工事...

速力試験... 諸工事...

0271

4-142

148

轉ヨ行フ傍ヲ再ヒ一時中止シタリシ速カ試験ニ取リカ、リ余未滿  
航水雷艇射等諸試験ノ間合率ヲ江田島秋月沖速カ試験標  
柱間ニ於テ該試験ヲ繼續シ四十二年二月ヲ以テ之ヲ了シテ今月  
十八日入渠更ラシ「ロウケ」ヲ五呎ヲ時ニ變更シ今二十日出渠以來  
諸行動ノ間合ヲ見テ第四回目ノ推進器ヲ以テ第二次速カ試験  
ニ從事シ今四月二日ヲ以テ一ト通り之ヲ終レリ

依ラ茲ニ其成績ヲ報告シ併テ推進器ノ優劣ニ關シ小官ノ所見ヲ  
述ブ

一、速カ試験成績、電力持續試験成績(曲線表添付)及ヒ速カ曲線

表別紙ヲ以テス

二、推進器ノ優劣ニ關スル所見

前ニ取付ケカリシ推進器(第二回推進器)尤ノ如シ

翅 三個 (固定)

1st screw

Dia. — 4.9"  
 pitch — 5.8"  
 Q.A. — 8.5 lb  
 No. of B. — 13

富士の社長  
 1件出せぬ  
 其後(結果)に  
 不良(7)に  
 (川崎の製造)

2nd screw

直径 四呎三吋  
 ピッチ 五〇呎  
 面積 六五平方呎

得る最大速力 一〇・八一節

現在取付中ノ推進器ハ九ノ如シ

3rd screw

直径 四呎八吋  
 ピッチ 三呎  
 面積 八四平方呎

三個 (デタキキブル)

現在取付中ノモノハ優良ナル速カラ得レト目的下ニ川崎造船所シ

テ特ニ製造セシメ豫備品トシテ當船ニ備ハタルモノナリ而シテ

一次試験ニ於テハピッチ四呎六吋第二次試験ニ於テハピッチ

五呎七吋ヲ以テシ別表ノ如キ成績ヲ得タリ即チ何レモ前者最

上川崎造船所  
 製造  
 結果  
 不良  
 七  
 不良  
 七  
 不良  
 七

川崎造船所  
 製造  
 結果  
 不良  
 七

0273





大速カマ及ハナルコト一節余ナリ而シテ斯ル劣等ナル成績ハ全一ノ次  
第ニヨリ實施シタル第七潜水艇ニ於テモ全様ニ認メタル如ク  
リ

右ニヨリ目下取付中ノ豫備進署ハ潜水艇ノ不通音ノモト認メ  
該ニ之ニ關スル比較試験ヲ結了シ且ツ通音ナル時機ヲ以テ前  
者ト取付ケ直シテヲ施スコトニ決定ス

別紙添付

終

電力持續試験成績

明治四十一年三月三十日より全四月二日までノ間ニ於テ電力持續試験

驗ヲ施行ス其成績尤ノ如シ(曲線表添付)

交流電流 回轉數 速度 持續時間

一五〇 一一〇 五、三三八 四十七分

一二〇 一一三 四、八五八 一時間

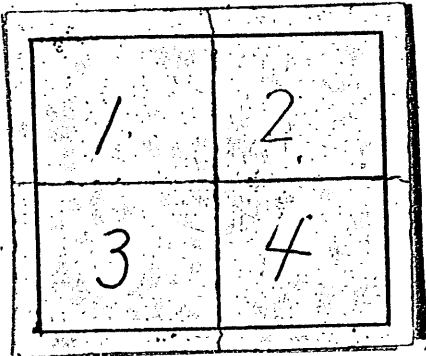
一〇〇 一〇六 四、三四九 一時間五十五分

九〇 九六 四、一八八 二時間三十分

電車



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3判以上のため
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0278

0279

0280

0281

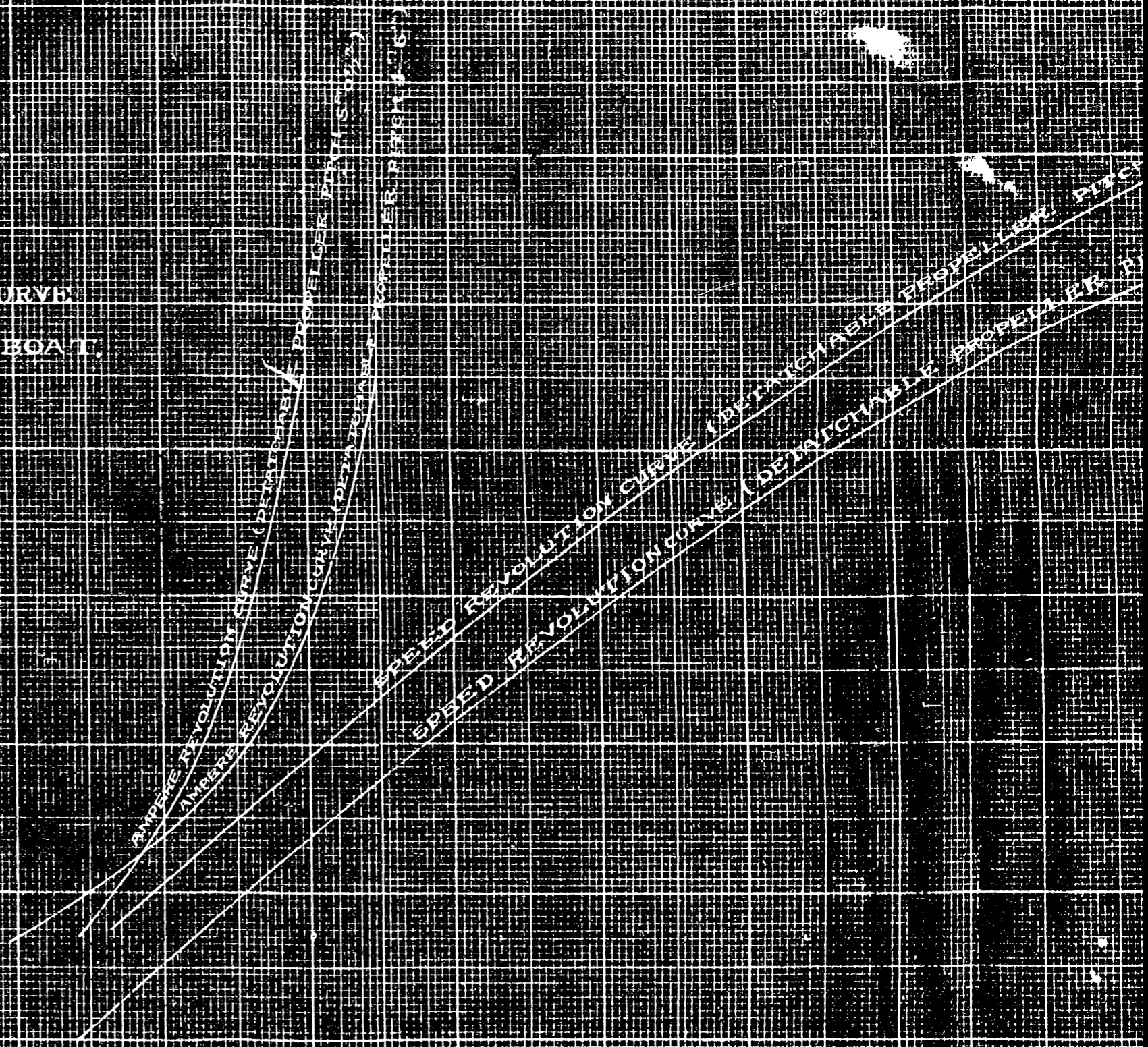
SCALE OF CURRENT IN AMPERE

SCALE OF SPEED IN KNOT

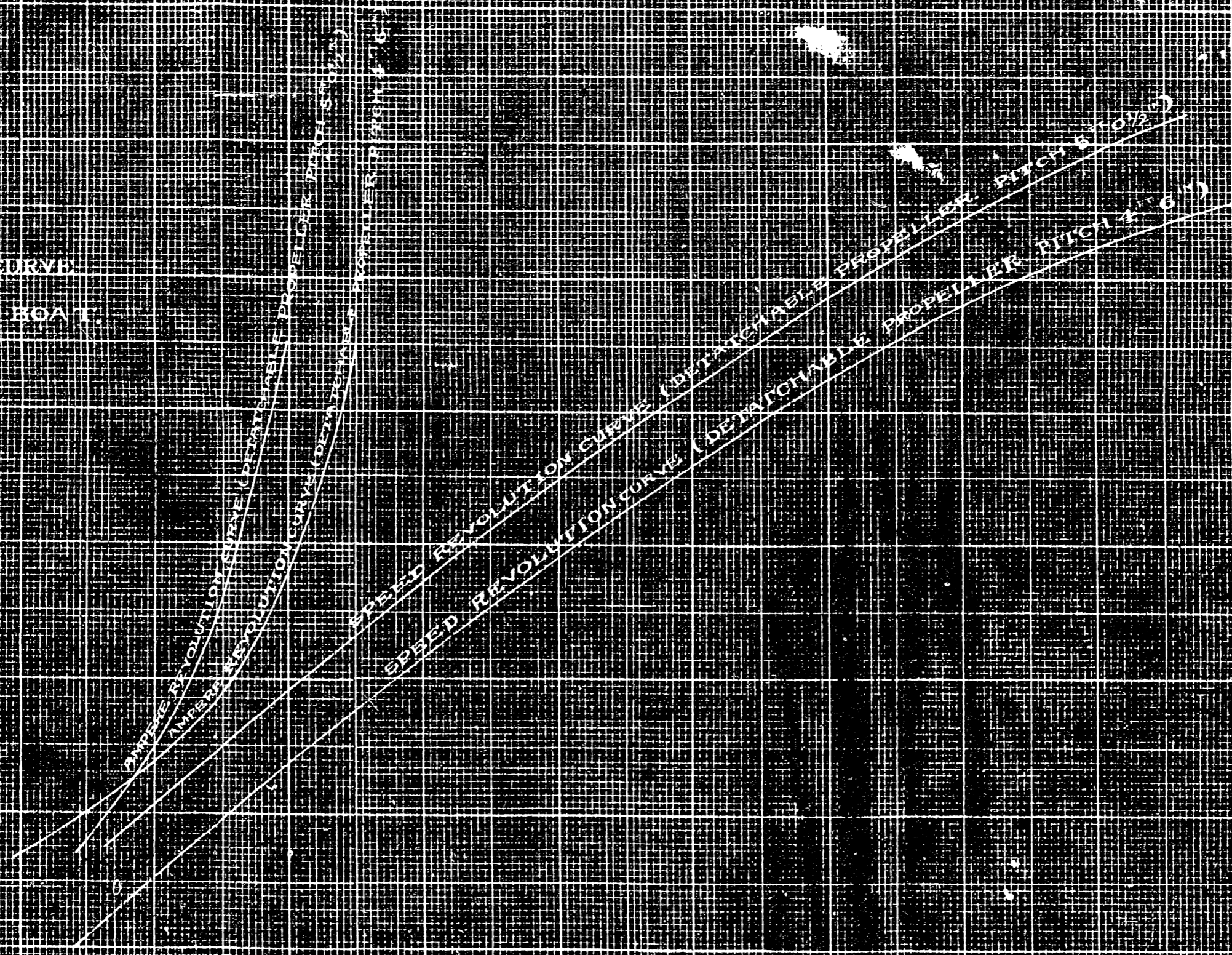
SCALE OF CURRENT IN AMPERE

SCALE OF SPEED IN KNOT

# PERFORMANCE CURVE OF NO. 6 SUBMARINE BOAT.



PERFORMANCE CURVES  
NO. 6 SUBMARINE BOAT



PERFORMANCE CURVE  
 OF  
 NO. 6 SUBMARINE BOAT.

SCALE OF CURRENT IN AMPERES

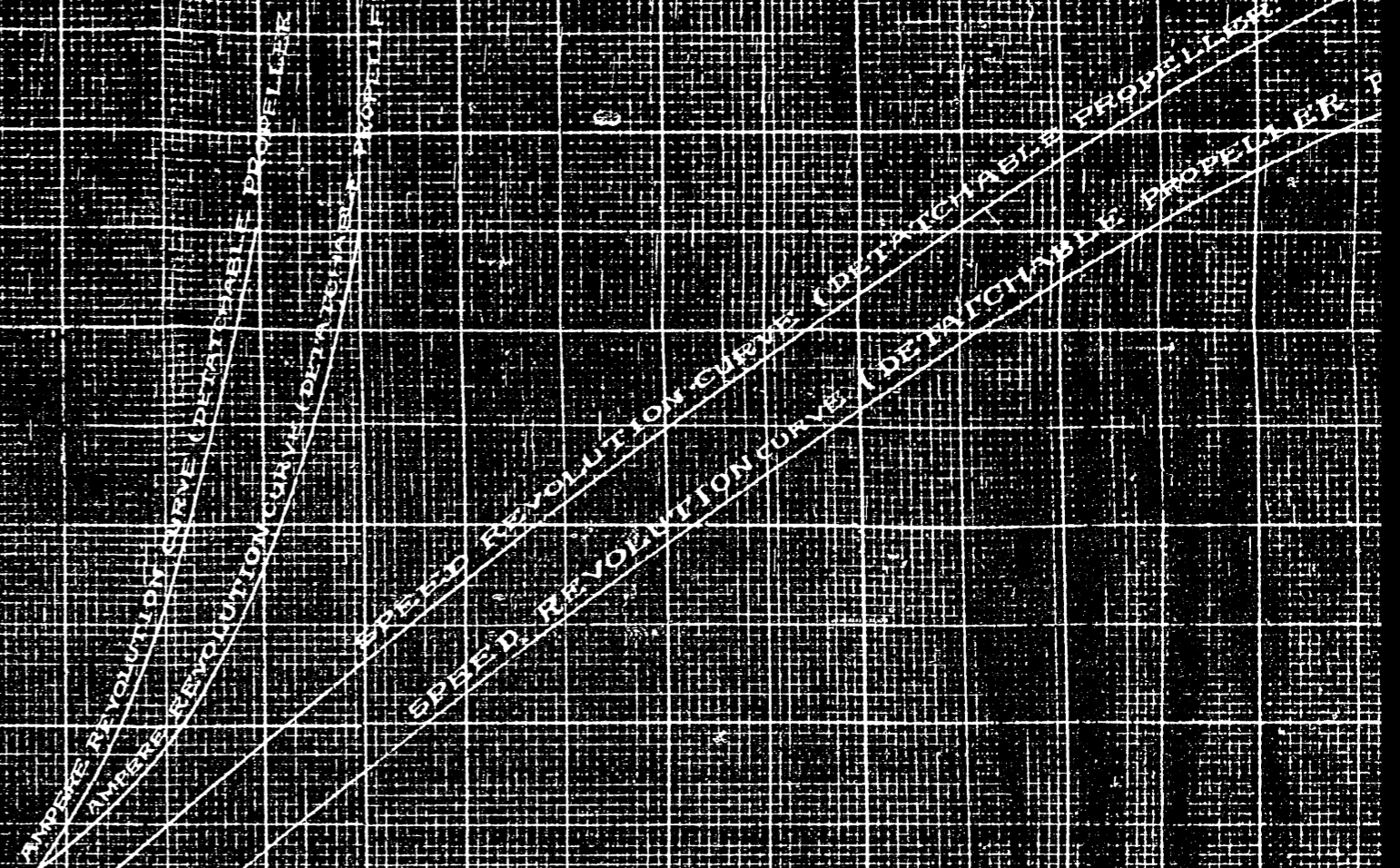
SCALE OF SPEED IN KNOTS

8  
7  
6  
5  
4  
3  
2  
1  
0

150  
140  
130  
120  
110  
100  
90  
80  
70  
60  
50  
40  
30  
20  
10  
0

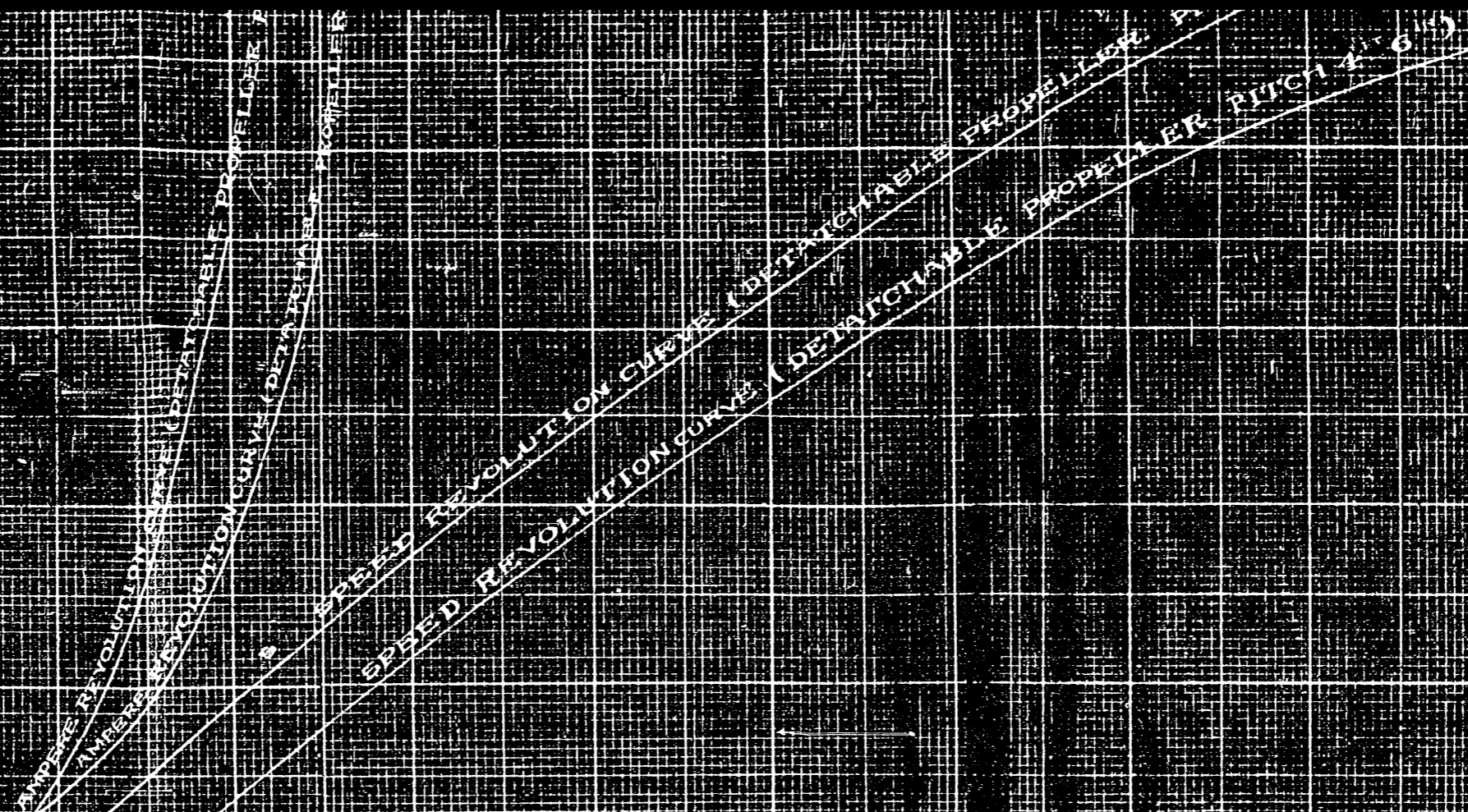
NO. OF REVOLUTIONS PER MINUTE

0 20 40 60 80 100 120 140 160 180 200 220





PERFORMANCE CURVES  
OF  
NO. 6 SUBMARINE BOAT



40 50 60 70 80 90 100 110 120 130 140 150 160 170 180 190 200 210 220 230 240 250 260  
NO. 6 REVOLUTION PER MINUTE

22512-1-25  
U.S. NAVAL OFFICE